



## ラクダには、どうしてこぶがあるの

### こぶは脂肪のかたまり

ラクダは、人間に飼われている家畜の中では、いちばん乾燥に強い動物です。砂ばくに生えている植物や、木の枝、葉などを食べ、食べ物や水がない日が少しぐらい続いて、長くなっても平気です。砂ばくは、1日中強い太陽の光が照りつけ、熱く焼けた砂がどこまでも続いていて、植物も動物もあまり見あたりません。水や、えさになる植物がある場所までたどりつくのに、何日もかかることが多く、ラクダは、その中で生きていくのにあつた体になってきたのです。

ラクダの背中のこぶは、体に必要な栄養分を、脂肪に変えてたくわえてあります。食べ物がないときは、この脂肪を少しずつ使って、生きていけるのです。長持ちする、お弁当みたいなものです。

### 背中のこぶは、太陽熱をさえぎる

また、背中のこぶは、上から照りつける太陽の熱をさえぎって、体にじかに熱が伝わらないような役目もしています。

ラクダは、体温が40度以上にならないと汗もかかないし、おしっこの量も1日1リットルと少なく、体内の水が、外に出ないような体のつくりになっています。体重の40パーセント近い水分がなくなっても、なんとか、生きていられるそうです。

(監修・今泉 忠明)

